

| 科目名      | 歴史総合   |                          | 1 学年・必修   | 使用教科書  | 『歴史総合 近代から現代へ』山川出版社  |                 |
|----------|--|--------------------------|---|--|--|-----------------|
|          |  |                          | 単位数：2 単位  | 使用副教材  | 『歴史総合 近代から現代へ ノート』山川出版社  |                 |
| 学習目標     | <p>「社会的事象の歴史的新見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の優位な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。」(学習指導要領より引用)</p> <p>①講義を聞きながら集中して授業の内容をまとめることで、確かな知識を獲得する。<br/>         ②得られた知識を基に歴史的事実に対する仮説を立て、検証することで思考力を養う。<br/>         ③知識・見識を活用しながら現代社会を見渡し、国際社会の一員として社会参加できる礎を形成する。</p>  |                          |   |  |  |                 |
| 学習方法     | <ul style="list-style-type: none"> <li>講義形式の授業とグループワークでの作業を併用して授業を展開します。プリントを配布して進めるので、ファイルを用意してください。</li> <li>毎回の授業を大切に、真剣に受講してください。講義を聞く姿勢やグループワークへの参加態度次第で知識の定着具合や思考力の伸び幅に大きな差が出ます。</li> <li>考査は原則漢字での回答を求めます。漢字が苦手な方は、自宅等で何度も書き取りをして練習しましょう。</li> <li>副教材は家庭学習のために使用してください。考査の前に回収して点検します。</li> <li>高等学校の地理歴史・公民は「暗記教科」ではありません。「暗記」するのではなく「理解」するよう努めましょう。</li> </ul> |                          |   |  |  |                 |
| 学習評価     | 評価の観点  |                          | 評価の観点の趣旨  |  |  |                 |
|          | I  | 知識・技能                    | 講義の内容を理解し、知識として定着させている。身に付けた知識を活用し、歴史的事象に関する疑問へ自分なりの仮説を立てることができる。 |  |  |                 |
|          | II   | 思考・判断・表現                 | 講義の内容をまとめた確認問題に対し、自分で思考し判断した答えを導き出す。創意工夫しながら自分の意見を表現することができる。     |  |  |                 |
| 他教科との関連性 | 該当する単元(教材)   |                          | 教科横断的な視点や関連する学習活動の例(連携授業を行う場合はその内容)                               |  |  |                 |
|          | 第七章<br>戦後の国際秩序と日本の改革   |                          | 家庭基礎  | 高度経済成長期以降の日本の家族構成について説明し、核家族化の進行や家庭における家父長制度の変遷を理解するとともに歴史的な変化を遂げる過程について自身の仮説を立て、検証する思考力を養う。 |  |                 |
| 学期       | 月  | 単元名(教材)                  | 配当<br>時間  | 学習内容   | 評価方法と学習のポイント   | Okushirlety 5.0 |
| 前期       | 4  | 第一章<br>結びつく世界            | 4   | 現代社会の基礎となる文明や国家の成り立ちを調べ、表現する   | 1 アジア諸地域の繁栄と日本(グループワークの参加態度)<br>2 ヨーロッパの海外進出(講義に向かう姿勢と確認問題)  | 学びに向かう姿勢        |
|          | 5<br>/<br>6  | 第二章<br>近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 | 12  | 近代国家を象徴する憲法や法律の成立過程を理解する   | 1 産業革命・フランス革命(講義に向かう姿勢と確認問題)<br>2 アメリカ独立戦争・アメリカの発展(仮説の設定と検証)<br>3 19世紀後半のヨーロッパ(講義に向かう姿勢と確認問題)<br>4 中国の開港と日本の開国(グループワークの参加態度)                             | 分析・判断力          |
|          | 7<br>/<br>8  | 第三章<br>明治維新と日本の立憲体制      | 6   | 日本の在り方が大きく変わった原因や要因について自分なりの仮説を立てる   | 1 明治維新と諸改革(グループワークの参加態度)<br>2 明治初期の対外関係(講義に向かう姿勢と確認問題)<br>3 自由民権運動と立憲体制(仮説の設定と検証)  | 分析・判断力          |
|          | 9  | 第四章<br>帝国主義の展開とアジア       | 8   | 世界に向けて進出する日本と列強諸国の動向を理解し、自分なりにまとめる   | 1 日清戦争・日露戦争(仮説の設定と検証)<br>2 帝国主義と列強の展開(グループワークの参加態度)<br>3 日本の発展・工業化(講義に向かう姿勢と確認問題)<br>4 世界分割(講義に向かう姿勢と確認問題)   | コミュニケーション能力     |
| 後期       | 10   | 第五章<br>第一次世界大戦と大衆社会      | 8   | 戦争によって変化した各国の社会の在り方を理解する   | 1 第一次世界大戦とロシア革命(講義に向かう姿勢と確認問題)<br>2 国際平和と安全保障(講義に向かう姿勢と確認問題)<br>3 アジア・アフリカ地域の民族運動(仮説の設定と検証)<br>4 社会・文化の変化と多様化(講義に向かう姿勢と確認問題)                             | 課題解決能力          |
|          | 11   | 第六章<br>経済危機と第二次世界大戦      | 8   | 経済成長から戦争に至った経緯を学び、なぜ戦争に繋がったのか仮説を立てる  | 1 世界恐慌の発生(講義に向かう姿勢と確認問題)<br>2 ファシズムの台頭(講義に向かう姿勢と確認問題)<br>3 日本の恐慌と満州事変・日中戦争(グループワークの参加態度)<br>4 第二次世界大戦と太平洋戦争(グループワークの参加態度)                                | 思考・判断・表現力       |
|          | 12   | 第七章<br>戦後の国際秩序と日本の改革     | 8   | 戦後の日本社会がどのようにして成長したのかを考え、現在の日本に至るまでの過程をまとめる。   | 1 核開発と東西陣営(講義に向かう姿勢と確認問題)<br>2 第三世界の連携と試練(講義に向かう姿勢と確認問題)<br>3 日本の高度経済成長(グループワークの参加態度)<br>4 世界経済の転換(仮説の設定と検証)   | 学びに向かう姿勢        |
|          | 1<br>/<br>2  | 第八章<br>冷戦と世界経済           | 10  | 冷戦期における様々な対立を学び、どの分野で対立が起きていたのかを調べて発表する。   | 1 冷戦の終結と国際情勢(グループワークの参加態度)<br>2 ソ連の崩壊と経済のグローバル化(グループワークの参加態度)<br>3 開発途上国の民主化と独裁政権の動揺(仮説の設定と検証)<br>4 地域紛争の激化(講義に向かう姿勢と確認問題)<br>5 国際社会の中の日本(講義に向かう姿勢と確認問題) | 思考・判断・表現力       |
|          | 2<br>/<br>3  | 第九章<br>グローバル化する世界        | 6   | 歴史的事象をもとに、現代社会における問題や課題を解決する方法を提案する。   | 1 現代世界の諸課題(仮説の設定と検証)<br>2 現代日本の諸課題(仮説の設定と検証)   | 課題解決能力          |